

令和7年3月13日

八王子市教育委員会殿

八王子市立陵南中学校
校長 坂内 聡

八王子市立陵南中学校 令和6年度 学校経営報告書

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育目標を実現するための基本方針に基づく取組と自己評価

| 基本方針 | 取組 | 自己評価 |
|----------------|--|---|
| 確かな学力の育成 | ①「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、学習端末を活用するなど個別最適な学びを行い、また少人数による話し合い学習を行うなど、協働的な学びを行っていく。 | 個人の状況に応じた ICT 機器の活用に努めている。話し合い活動時の意見交換の手段としても活用。また、少人数による話し合い活動を充実させた。 |
| | ②体験的な学習を通して、努力することのよさを理解し、学んだことを活かす生徒を育成する。 | 英語の授業での ALT を活用して、学んだことを生かす授業を展開した。また、技術家庭科では、既習内容を活かした作製や実習を行った。 |
| | 「授業における、説明や板書、ICTの活用などの工夫」肯定的評価 生徒 95% 保護者 74% 「学級は落ち着いて学習できる雰囲気ですか」 肯定的評価 生徒 76% 保護者 80% | |
| 豊かな心の育成（いじめ防止） | ①外部講師を活用した講演会や体験などを通して豊かな心、よりよく生きるようとする力を育む。 | 2回全校での人権教室を実施、自分の良さを自覚し、肯定的に考え行動出来てきている。 |
| | ②道徳教育において自ら考え、一人ひとりの多様性を尊重し、互いの良さを認め合う力を育む。 | 「命の学習」、「救急救命講習」、「福祉体験」などでは、一人一人が大切な存在であり、互いの違いを理解することで、友好的な人間関係を築くことができた。 |
| 健やかな体の育成 | ①自らの健康を考え望ましい食生活が行える生徒を育てるため、計画的な食育指導を図る。 | 昼食時栄養士の指導のもとに食材をテーマにした食育を行っている。 |
| | ②保健体育や食育、保健指導、部活動等を通し、心身の健康や体力を増進させるとともに多面的・多角的な見方や考え方を培う。 | 保健体育の剣道、ダンスの授業に外部講師を招いての専門的な指導などにより、自己の体や健康についての関心を深めた。 |
| 小中一貫教育のさらなる充実 | ①9年間で育てたい児童・生徒像「いつでもどこでも 自己を発揮できる人」の育成に向け、地域と共に小中一貫教育をより一層充実させていく。 | 「こどもサミット」を契機に、小中学校での交流が強化された。東浅川小学校とともに青少対の挨拶運動に参加している。 |
| 不登校生徒への適切な対応 | ①関係者との連携を密に行い生徒が学級以外で過ごせる場をつくるなど、教育の機会を確保していく。 | 別室（輪室）利用者多数。不登校巡回指導教員、支援員、学級担任、特別支援専門員等が連携してより良い方向になるよう対応している。 |

| | | |
|--|--|---|
| いじめ総合対策を踏まえ、いじめの防止等の取り組みを効果的に実行するための方針 | ①自他のよさを活かそうとする力や、自己の弱さを認め克服したり、補ったりする力を育成する。また生徒をほめることで自己肯定感を高めるなど、いじめ未然防止につなげる。 | 年3回のいじめ調査で早期発見、早期対応ができています。問題解消の見守りも着実にいき、再発防止につなげている。 |
| | 「いじめのない学校づくりに取り組んでいるか」 | 肯定的評価 生徒 85% 保護者 74% |
| 一人ひとりの教育的ニーズに的確に応える特別支援教育の充実 | ①生徒一人ひとりの特性を踏まえ、個に応じた環境整備や学習端末の活用、合理的配慮を行い、困難を抱える生徒の自立支援を充実させる。 | 特別支援委員会で現状を確認し、個別の対応策について、特別支援教室や外部機関（主にSSW）と連携し、効果的に行った。 |
| | 「特別な支援を必要とする子どもに対して、支援や指導に取り組んでいるか」 | 肯定的評価 保護者 72% わからない 保護者 22% |

(2) 指導の重点への取組と自己評価

| 分野 | 取組 | 自己評価 |
|-----------|--|---|
| 各教科 | ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために1人1台の学習用端末を含むICT機器を活用し、個別最適な学び及び協動的な学びの場を実現していく。生徒一人ひとりが学習用端末を活用し主体的に学習を調整して学んだり自己の学びを振り返ったりする活動を取り入れ課題解決学習及び自主的、自発的な学習を行う。また全教科指導の中で「少人数の話し合い学習」を取り入れていく。 | 国語、数学の学習を週1回ずつ行っている。ICT機器を活用した発表活動や話し合い活動を行っている。また、授業のまとめレポートの作成なども端末で作成、送信などを行っている。美術ではICT機器の機能を活用したデザインの学習を行っている。 |
| | ②八王子市学力定着度調査をはじめとする各種学力調査や生徒による授業評価の結果に基づいて、基礎・基本の定着と学力の向上を図る。また1人1台の学習用端末を用いたドリル型学習コンテンツ等を活用し、放課後学習の取組などの計画を作成する。 | 特別支援委員会と連携し、放課後学習の効果を高めるよう工夫を行った。放課後学習は、生徒に定着。継続して取り組んだ結果、学力が向上し、意欲が高まった生徒が増えた。 |
| | ③数学科及び英語科の授業において東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドラインに沿った習熟度別少人数授業を実施し、習熟度に応じた発展的な学習の提示を行うなど生徒の実態に応じた指導を進め、一人ひとりの生徒の学力向上を図る。 | 数学および英語の授業において少人数授業を実施した。生徒の授業に対する集中力は高い状態を維持している。特に1年生は、1クラス当たりの人数が少ないため、個別対応の機会が増え、英語では、スピーキングの意欲が高まっている。 |
| 総合的な学習の時間 | ①郷土学習では学年ごとにテーマを設定し、生徒一人ひとりが探究する。八王子の歴史を知り、よさを学んだり、他の地域との比較を行ったりする等、地域の発展について考え、身近な地域をよくしようとする資質・能力の育成をめざす | 八王子、東京、日本と学年が上がるごとに視野を広げながら、郷土の良さについて考えるように指導を行ってきた。 |
| | ②実社会、実生活の中から課題を見だし、情報を集め、整理・分析する力を育成するため、他の教科と横断的に探究的学習を行い、複数の知識・技能を組み合わせ、適切に活用する授業改善を行う。 | 2年生に対して車いす体験や盲導犬利用者の講話、救急救命講習を行った。また1年生は防災の学習を通して社会活動について考えるようになった。 |

| | | |
|-------------------|--|--|
| 特別活動 | ①話し合い活動など学級活動の充実によって、小集団の中での人間関係づくりの方法を学ぶ。特に学級活動や学校行事では互いのよさを認めながら、自己存在感や自己決定に必要な資質能力を培う。 | 学級活動や行事、日常の活動から互いのことを理解し、尊重する態度が生まれている。 |
| | ②集団宿泊の行事での集団生活を通し、グループ別行動など自ら立案、計画できる自立的な力を培うとともに、他者と協調して生活する力を育成する。 | 互いの良さを認め合い、協力しながら、より良い行事になるよう生徒は努力していた。生徒の協力により、時間通りの活動が行えていた。 |
| 特別の教科 道徳を要とする道徳教育 | ア道徳教育全体計画及び、別葉をもとに教育活動を通して、社会生活における正しい判断力・人に対する思いやりの心・生命尊重に徹する態度を育て、豊かな心を育む。 | 外部機関や人材を活用し、「命」に係わる学習を多数行う。一人一人がかけがえのない存在であり、互いを活かすように意識が高まってきた。 |
| | イ「よりよく生きる喜び」、「生命の尊さ」を重点とし、道徳科を要として、道徳的価値について考える機会を意図的に設定し、生徒一人ひとりの道徳性を育む。 | 各教科の中でも、「よりよく生きる喜び」、「生命の尊さ」について深めることができた。 |
| | ウ道徳授業地区公開講座において、学校運営協議会委員や外部講師を招いて協議会を行い、地域と連携した道徳教育を推進する。 | 2年生を対象に道徳の授業を学運協の委員が行った。日頃とは違う授業に生徒は、興味関心を持って学習に取り組んだ。 |
| | エD-(19)「生命の尊さ」を重点課題とし、外部講師を招き、全校で人権について学び考える時間を設定し、実生活の中で実践ができる力を育成する。 | 互いの持つ権利について考えを深めることができた。 |
| キャリア教育 | ア陵南中学校グループが一体となって「はちおうじっ子キャリア・パスポート」の活用を通し、自己の生き方について考え、多様化した社会に適応できるキャリアの選択ができるようにする。 | 計画的にキャリア・パスポートを活用し、自己について振り返りをさせた。振り返りを通して自己の良さを再発見するとともに、次の目標や解決すべき課題を見出していた。 |
| | イ キャリア教育の視点に立って、自己理解を深め、個と集団のかかわりを認識し、将来にわたる生き方を考え、希望をもって自らの進路を切り開くことができるよう、第1学年では職業調べ、第2学年では職場体験や上級学校調べを実施し、第3学年での進路選択等に向けて、指導の充実を図る。 | 保護者、地域の協力を得てキャリア教育の充実を図った。特別支援学級も2年生で職場体験を行い、上級学校やその先の生き方について学習を深めた。 |
| | ウ 地域・家庭、近隣小学校との連絡をより密にし、生涯にわたって学習しようという意識の向上を図る。 | 地域との連携を深め、先達から学ぶ機会を設け、その意識を高めた。 |
| | エ 進路学習との関連を重視し、職場体験、外部講師を招いての講話等を通して将来に夢や希望をもち、自己実現できる力を育成する。 | 地域の企業家や保護者との交流を通して、自己のために学習することの意義を学び、職業調べや職場体験等の報告で発表した。 |
| 特別支援教育 | ①学校生活支援シートや連携型個別指導計画を活用し、生徒のニーズを的確に把握し、学習環境や合理的配慮など個に応じた指導を行う。 | 週1回の特別支援委員会で、SCなどを交えて情報共有、支援方法の検討を行っている。また研修を通して生徒理解の方策について学び、指導に生かしている。 |
| | ②特別支援学級また都立特別支援学校との副籍交流校と通常の学級との交流を深める。 | 学校行事、委員会活動など日常的な活動で交流している。その交流をより良いものにするために特別支援学級の生徒への対応について職員の研修を行った。 |

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| 生活指導 ア生活指導 | <p>①女子生徒の標準服のズボンの選択の自由など、実態に応じた校則の改善などを行っていく。</p> <p>②外部講師を招いたセーフティー教室などで必要な知識を身につけ、自他の身を守る行動がとれるようにする。</p> <p>③『生命（いのち）の安全教育』を推進し、犯罪や性犯罪・性暴力の被害者、加害者、傍観者にならないよう指導を行い、自分や相手、一人ひとりを尊重する教育を実践していく。</p> | <p>校則等について、生徒会でも検討を始めた。</p> <p>救命救急の講習の時など、自分の身を自分で守ることを指導した。</p> <p>自他を尊重するためにも、守るべきルールについて、指導を行った。</p> |
| 生活指導 イいじめ防止等の取組 | <p>①学校いじめ対策委員会を週1回以上開催し、生徒の情報、交換、経過や今後の方針を検討する。</p> <p>②分掌や委員会などで出た生徒情報を共有し「いじめの未然防止・早期発見・早期対応」に取り組んでいく。</p> <p>③全学年で年1回の「いじめ防止」をテーマにした授業するとともに、SOSの出し方に関する授業を実施する。年3回ふれあい月間アンケートの実施をし、情報リテラシーの学習の充実も行う。</p> <p>④「八王子市いのちの大切さを共に考える日」に、生命の尊さをテーマとする特別の教科道德の授業を行う。</p> | <p>学校いじめ対策委員会だけでなく、生活指導部会、学年会などで、情報の早期収集に努めたことにより、今年はいじめの早期発見、早期対応ができ、解消後の見守りも継続的に行えた。</p> <p>いじめの芽につながらないように、他者理解、互いの良さを認め合える心の教育に努めた。</p> <p>情報リテラシーの学習を技術科の授業を中心にしている。</p> <p>命の大切さについて様々な視点から指導をおこなってきた。赤ちゃんふれあい事業では、命の大切さを生徒は強く感じていた。</p> |
| 生活指導 ウ不登校生徒への支援等 | <p>① 定期的な学年会、生徒との個人面接や保護者との面談を実施し、全教職員、家庭による情報交換を密に行い、必要に応じてSCなどに繋げる。</p> <p>②教育相談を充実させ、第1学年生徒に対して、管理職による全員面談を実施する。</p> <p>③登校支援コーディネーターを核とし、個票システムを活用し、迅速かつ丁寧な対応を行う。必要に応じて外部機関との連携や1人1台の学習用端末を用いてサポートを実施する。</p> | <p>不登校生徒数を減少させることはできなかったが、別室を活用し、登校できる日を増やす取り組みを行い、登校日数が増えた生徒がいる。</p> <p>3学期に1年生の面接を行う。一人一人から学校生活の話を聴き、対処した。</p> <p>個票システムを特別支援委員会やいじめ対策委員会で活用し、生徒状況の把握と対応策の作成を行った。SSWとも連携を密にし、サポートの機会を増やした。</p> |
| 特色ある教育活動 ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組 | <p>（取組1）各学期1週間、合同のあいさつ運動を東浅川小学校で行う。小学校第6学年が第3学年の合唱見学を実施する</p> <p>（取組2）はちおうじっ子ミニマム、市学力調査の結果を共有し、学力定着プロジェクトチームで、共通する課題を見つけ、授業改善や、学習定着に向けた補充方法について検討する。</p> <p>（取組3）生活指導や特別支援について、児童・生徒の諸情報を記録、回覧をし、共通理解を深め、全職員で連携して対応をしていく。</p> <p>（取組4）青少対主催防災体験やクリーン活動に積極的に参加するようはたらきかける。</p> | <p>青少対や東浅川小学校と連携し、地域清掃や挨拶運動を行った。</p> <p>年3回の研修会で、その方向性を確認しあった。</p> <p>年3回の研修会で、その方向性を確認しあった。</p> <p>生徒会から朝礼等で呼びかけを行い、参加を募った。</p> |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 特色ある教育活動 イ 学力向上の取組 | ①朝の10分間を陵南タイムと設定し、国語科、数学科それぞれ週に1回ずつ、はちおうじっ子ミニマムの結果を反映したドリル型学習コンテンツを活用して、基礎・基本の定着をめざす | 国語と数学の学習を行う。家庭学習につなげるよう、授業の中で、学習コンテンツの指導も行った。 |
| | ② 放課後学習の拡充を図り、ボラティアを活用し、数学や英語に特化した少人数での補習学習を行う。学校運営協議会と連携し、各学期に、英語検定日・漢字検定日を設ける | 漢検4回、英検3回実施。漢字検定では、東浅川小学校の児童も2回参加している。 |
| 特色ある教育活動 ウ その他 | ①陵南中学校グループが一体となって情報活用能力系統表を活用し、プレゼンテーションソフトを使って発表が出来るようにする。授業や授業以外の場面で主体的に使用できる能力の育成をめざす。 | 小学生向けの生徒会からの説明等で、プレゼンテーションソフトを使って発表を行った。 |
| | ②「陵南中学校2020レガシー」として、地域へのボランティア活動等を通して、地域への郷土愛を育て、地域に貢献できる人材の育成を図る。 | 生徒会役員等が中心となり、地域の団体や、小学校でボランティアとして活動を行った。 |
| | ③ 部活動は、「八王子市立学校に係る部活動の方針」に則り、生徒による自主的活動とする。バレーボール部、サッカー部では横山中との合同部活動を計画する。 | 横山中と連携して活動を行った。 |
| | ④学習端末を週末ごとに持ち帰り、家庭で自主的、自発的に学習課題に取り組めるよう計画をする。 | 学習端末を毎週持ち帰り、自主学習につながるよう指導を行った。 |

2 次年度以降の課題と対応策

| NO | 分野 | 課題 | 対応策 |
|----|------------------------------|--|---|
| 1 | 確かな学力の育成 | ①検索結果をうのみにしている。 | ①情報を多方面から収集することを調べ学習を行う際に指導を行う。また、1つの情報源だけでなく、多くの情報を得て、批判的に文章を読む指導を国語科を中心に行う。 |
| 2 | 豊かな心の育成（いじめ防止） | ①現状にあまえず、常に実態に即した指導を行う。 | ①年3回のいじめ防止研修を確実にを行い、指導力の向上を図る。 ②人権教育を継続しながらも、一斉授業ではなく、クラス単位での学習を考えていく。 |
| 3 | 小中一貫教育の充実 | ①東浅川小学校と陵南中学校との連携していることを本校生徒は理解しきれていない。 | ①小中で一貫した取り組みを行い、小学校での活動が中学校で活かされる機会を作る。 ②実施した内容の広報を継続的に行う。 |
| 4 | 不登校生徒対応 | ①不登校生徒対応の連携が密になり切れていない。 ②不登校生徒の学級に戻るプロセスが作られていない。 | ①別室の支援員と担任等との連携が図れるよう不登校巡回指導教員を活用する。 ②校内委員会で、プロセス案を作成、検討していく。 |
| 5 | いじめの防止等の取り組みを効果的に実行するための方針 | ①教員が保護者へのいじめ防止の取り組みについて説明できていない。 | ①年度当初に研修会を行い、保護者への概要説明の仕方や、いじめが起きた時の対応方針等の説明ができるようにしていく。 |
| 6 | 一人ひとりの教育的ニーズに的確に答える特別支援教育の充実 | ①個々のニーズに合わせて対応策を作成、実行しているが、その検証ができていない。 ②対応する生徒が増加傾向にあるため、い間の対応が不十分になる可能性がある。 | ①基本のアンケートを作成し、対応策実施後に生徒にアンケートを取り、検証を行う。 ②特徴の系統立てを行い、対応策の基本を作り、特徴に合わせて変えていくようにする。 |